

「改訂版 図説やさしい建築施工」第2版第2刷 訂正箇所一覧

令和 7 年 8 月

ページ	修正前	修正後	修正意図
P7 表 1・1 建築に携わる人々 ④施工者	表 建設業の許可 特定建設業の許可 下請負代金の額が 4500 万円（建築一式工事 の場合は 7000 万円）以上となる場合	表 建設業の許可 特定建設業の許可 下請負代金の額が 5000 万円（建築工事業の場合 は 8000 万円）以上となる場合	2025 年 2 月 建設業法改正
P7 表 1・1 建築に携わる人々 ⑥監理技術者 主任技術者	表 監理技術者 下請負代金の額が 4500 万円（建築一式工事 の場合は 7000 万円）以上となる場合	表 監理技術者 下請負代金の額が 5000 万円（建築一式工事の場合 は 8000 万円）以上となる場合	2025 年 2 月 建設業法改正
P26 コラム	▶▶▶施工 5 管理について	▶▶▶施工管理の QCDSE について コラム差し替え	差し替え
P36 表 6・2 サウンディング ①スウェーデン式サ ウンディング試験	①スウェーデン式サウンディング試験（図 6・3、6・4）	①スクリュウエイト貫入試験（スウェーデン式 サウンディング試験）（図 6・3、6・4、コラム）	2020 年 JIS 改 正名称変更
p 37 図 6・3 スウェーデン式サウ ンディング試験	p 37 図 6・3 スウェーデン式サウンディング試験	p 37 図 6・3 スクリュウエイト貫入試験	2020 年 JIS 改 正名称変更
p 37 図 6・4 スウェーデン式サウ	p 37 図 6・4 スウェーデン式サウンディング試験の調査ポ	p 37 図 6・4 スクリュウエイト貫入試験の調査ポイントの	2020 年 JIS 改 正名称変更

ンディング試験の調査ポイントの例	イントの例	例	
P37 コラム	▶▶▶スウェーデン式サウンディング試験の調査方法の変化	▶▶▶スクリーウエイト貫入試験（SWS試験）へ名称変更	2020 年 JIS 改正名称変更 差し替え
P38 表 7・1 直接仮設工事の測量	基準墨 (図 7・4)	墨出し 内容は別紙（3）参照	見直し
p 43 図 7・14 高低差の計算	測量の方向→ BS：後視 FS：前視	表示位置の変更 測量の方向→：下の図の A の位置に BS：後視 FS：前視 ：図の空欄に	見直し
p 51 図 9・5 山留め・支保工	p 51 図 9・5 山留め・支保工	p 51 図 9・5 山留め壁・支保工	見直し
p 51 表 9・2 山留め壁による分類	ソイルセメント柱列山留め工法（図 9・8） ・原位置土（現場の掘削土）とセメントミルクをよく混ぜ造成した後、H形鋼やシートパイルなどを挿入して柱列状の山留め壁とする工法。	ソイルセメント柱列山留め壁工法（図 9・8） ・原位置土（現場の掘削土）とセメント系懸濁液を混合・攪拌しソイルセメントを造成した後、応力材としてH形鋼などを挿入して柱列状の山留め壁とする工法。SMW（Soil Mixing Wall）工法とも呼ぶ。	見直し
p 51 表 9・2 山留め壁による分類	場所打ち RC 山留め工法（図 9・9） ・地下に鉄筋コンクリート造の地中壁を構築する工法。	場所打ち RC 地中壁工法（図 9・9） ・地下に RC（鉄筋コンクリート）の地中壁を構築する工法。	見直し

p 52 図 9・8 ソイルセメント柱列 山留め工法	p 52 図 9・8 ソイルセメント柱列山留め工法 図中表記 ソイルセメント	p 52 図 9・8 ソイルセメント柱列山留め壁工法 図中表記 ソイルセメント壁	見直し
p 52 図 9・9 場所打ち R C 山留め 工法	p 52 図 9・9 場所打ち R C 山留め工法 図中表記 R C 造	p 52 図 9・9 場所打ち R C 地中壁工法 図中表記 鉄筋コンクリート地中壁	
p 95 表 11・37 コンクリートの欠陥	ジャンカ（豆板）	豆板（ジャンカ）	見直し
p 95 表 11・37 コンクリートの欠陥	す（空洞）	空洞（す）	見直し
p 95 表 11・38 コンクリートの欠陥 に対する対策	ジャンカ（豆板）	豆板（ジャンカ）	見直し
p 95 表 11・39 コンクリート硬化後 の欠陥の確認	①ジャンカ（豆板）、す（空洞）、コールドジョ イント等の有無の確認は・・・	①豆板（ジャンカ）、空洞（す）、コールドジョ イント等の有無の確認は・・・	見直し
p 101 2 現場作業 2 行目本文	アンカーボルトの埋込み・ベース仕上げ・建 方・仮ボルトの締付け・・・	アンカーボルトの埋込み・ベースモルタル仕上 げ・建方・仮ボルトの締付け・・・	見直し
p 101 図 12・14 現場作業の流れ	ベース仕上げ	ベースモルタル仕上げ	見直し
p 102 図 12・16 全面塗り仕上げ工法	図中表記 モルタル	図中表記 ベースモルタル	見直し

p 102 2 ベース仕上げ	2 ベース仕上げ	2 ベースモルタル仕上げ	見直し
P 103 表 12・11 建方から接合までの 留意事項	⑤高力ボルト継手では、仮ボルトは本接合のボルトと・・・	⑤高力ボルト継手では、仮ボルト＊は本接合のボルトと・・・	加筆
P 103 表 12・11 建方から接合までの 留意事項 枠下部		＊：仮ボルトは鉄骨建方時に使用するボルトのことで鉄骨の建入れ直し後に本締め用ボルトに交換される。建入れ直し時にボルトに傷がつき強度が低減する恐れがあるため採用される。	加筆
p 114 コラム	▶▶▶アンカーボルトの“田植え”禁止	▶▶▶高層木造建築について コラム差し替え	差し替え
p 114 2 集成材 1 行目	集成材とはひき板(ラミナ)や	集成材とはラミナ (ひき板)や	見直し
p 190 <参考文献>		日本建築学会『建築工事標準仕様書・同解説 (JASS) 3 土工事及び山留め工事』2022	追加
p 193 鉄骨工事	6 ベースプレート下のベース仕上げをあと詰め中心塗り工法で行った。	6 ベースプレート下のベースモルタル仕上げをあと詰め中心塗り工法で行った。	見直し